

# 建設防災 ボランティアニュース 第65号

目次

- ・ 総合防災訓練
- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 前期道路施設等点検
- ・ 寄稿(第一市街地整備事務所)

## 平成 29 年度総合防災訓練

### —多摩川河川敷で17名が躍動—

さわやかな秋晴れの9月3日(日)、多摩直下地震(マグニチュード 7.3)が発生したとの想定のもと、平成 29 年度東京都・調布市合同総合防災訓練(以下、総合防災訓練という)が調布市多摩川児童公園及び周辺地域で開催されました。

訓練目的は「震災時における都、市、各防災機関との連携の強化及び自助・共助に基づく地域防災力の向上を図るため、実践的な訓練を実施する。」というものです。

訓練場所が調布市ということで、担当は北南建事務所、当然、防災ボランティアも北南建班が主体となり、他の事務所班の支援をいただき、訓練に参加しました。訓練項目は道路障害物除去(道路啓開)訓練、展示・体験訓練(都市型水害水防工法・水圧扉体験・防災公園関連・河川部パネル展示)と多岐にわたり、当日の参加者(敬称略)は古川公毅、柿塚至、内山一夫、米田秀男、舛原邦明、川合康文、池田繁敏(前日のリハーサルにも参加)(北南建班)、矢野末義、中込孝仁(南西建班)、藤井賢介、野村隆、吉原一彦(北北建班)、

伊藤精美、丹野修、小口健蔵(西部公園班)、久保田元久、林幹生(本部)の17名でした。

まず、道路障害物除去作業(道路啓開)訓練について報告いたします。

西倉局長は講評の中で、東日本大震災時では、道路障害物除去作業が速やかに実施され、その後の各防災関係機関の活動を支えた非常に重要な作業であることが証明されていると述べられました。今回の総合防災訓練は地震発生後、遮断された道路の障害物を速やかに除去し、各防災機関の車両がその道路を通行し、被災箇所に向かうという想定のもとに設定されております。そのため、地震発生から道路障害物除去作業完了及び1車線通行解除まで、「24分」の訓練時間です。

9時40分、現地対策本部前で坂口所長より、この総合防災訓練にあたっての目的・心構えの訓示があり、いよいよ訓練準備が完了。

10時45分、多摩直下に地震発生、訓練開始です。すぐに現地対策本部が設置され、10時47分、野末応急対策班長より建設防災ボランティアに地震による管内道路(都道調布2号線)の被害調査の依頼があり、道路巡回のため、隊列を組んで駆け足で現地に向かいました。(昨日のリハーサルでは私一人、現地調査をさっさとやってしまい、報告が早すぎた—大反省—)本番では、内山さん、川合さんと3人で実施し、ガレキの量や街路樹の高さ等のスケールによる計測、街路灯のナンバー確認など調査を綿密に行



い、かつ運営本部のアナウンス「建設防災ボランティアの方が被災現場で活動中です。」を確認しながら、時間管理もしっかりと行った結果、予定の10時53分に、柿塚さんも加わり、ボランティア4名で野末応急対策班長に「ガレキ5㎡散乱、街路樹2本・街路灯1本の倒壊による道路20mが遮断」と被害状況を報告しました。

本日の訓練の中で、この防災ボランティアの調査が被害現場での最初の活動であり、運営本部、出動待機している各防災機関、観客等の注目の的であったので、しっかりと調査し、目標通りの時間に報告が完了し、内心「ホット」いたしました。

その後、調布市道・都道調布1号線・2号線の順番にガレキ・街路樹・街路灯(林建設が担当)や放置車両(JAFにより移動)が11時5分までに撤去され、1車線が確保されたことを最終点検し、道路巡回車(東京都、調布市)、JAFレッカー、重機、トラックの順に退場して、11時9分に訓練が予定通り完了しました。担当の皆様、ご苦労様でした。

道路啓開により通行止めが解除され、消防庁、警視庁、自衛隊等の各防災関係車両が次々と被災現場に向かいました。



北南建班 池田繁敏

### 一河川関連展示・体験訓練も大盛況一

河川関連の展示・体験訓練には、「パネル」展示班に北北建班の吉原一彦、野村隆、「土のう・水のう」体験班に南西建班の中込孝仁、北南建班の舛原邦明、「水圧扉」体験班に南西建班の矢野末義、北南建班の古川公毅、米田秀男の7名が参加し、職員の皆さんや協力会社の林建設の社員の方々と水防活動のPRに努めました。

河川ブースでの周郷防災課長の挨拶後、各自持場に分かれ、台風一過の晴天のもと汗をかきながらの対応となりました。ブースは、メイン会場からかなり離れた場所で参加者が来るのか危惧もあり

ましたが、結果は用意した砂が残りわずかになるなど、予想を大きく上回る盛況となりました。

土のう体験では、受付に15kg、20kg、25kgの見本を展示し、参加者に応じて砂の量を調節(加減)できるように工夫するなど準備も万端でした。開始早々は、まばらな時間帯もありましたが、熱心な呼び込みやちょっとした小芝居の甲斐もあり、お子さん



連れの家族を中心に各年代の皆さんが大変熱心に興味深く体験されていたのが印象的で、最終時刻の13時まで参加者が途切れることはありませんでした。参加の皆さんからは、「大変貴重な体験ができた」、「土のう・水のうはどこで売っていますか」、「一番大切なのは自らの命を守ることだ」など、初心的なものから核心を突くものまで様々な意見がありました。

近年の各地で起きる集中豪雨や大規模浸水被害をはじめ、柳瀬川での急激な水位上昇による樹木に取り残された釣人のへりによる救助など、いっどこで発生してもおかしくない水害に対する関心の高さを示すものではないでしょうか。

メイン会場での知事や建設局長の講評の後、ブースにおいて、東野河川部長から懇切丁寧な感謝の挨拶があり無事終了となりました。参加された皆さん、大変お疲れ様でした。その後、会員有志で「水分補給兼反省会」を開き次回への英気を養い帰宅の途に就きました。

北南建班 舛原邦明



ロープワーク指導



西部公園班の皆さん

野川ちびっ子先生集まれ	7/3	北南建	7名	106名
わくわく川清掃&川あそび	7/16	北北建	5名	450名
夏休み多摩川教室	7/25, 26	京浜河川	4名	777名
かわフェスタ	7/29	河川部	4名	1987名
川のシンポジウム	7/26	河川部	5名	106名
計			30名	3581名

担当理事 高橋紀男

## 河川愛護月間行事

### —各地で延べ67名が参加—

今年九州北部では想像を絶する豪雨により大規模な災害が発生しましたが、幸い東京は大きな水害もなく秋を迎えました。今年も各地で河川愛護月間行事が開催されましたが、井の頭公園で開催された「かわフェスタ」と、多摩川流域協議会等が主催する「夏休み多摩川教室」にも初参加しました。暑い中延べ67名の会員が活動しました。皆さんお疲れ様でした。各行事の参加者等は以下のとおりです。

#### 1) 川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
旧中川	雨中止	治水	0名	0名
隅田川	7/7	一・五建・治水	4名	110名
石神井川	7/1	四建・六建	3名	24名
南浅川	7/8	南西建	2名	38名
多摩川	7/13	西建	4名	49名
計			13名	221名

#### (2) 川のパネル展

場 所	開催日	会員	都民等
一庁45F南展望室	7/1~7	12名	1881名
新宿西ロイベントコーナー	7/25~27	12名	2515名
計		24名	4396名

#### (3) その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大トンネルを体験	7/22	三建	5名	155名

### 第1回『かわフェスタ』に参加して

平成29年7月29日(土)10時~16時、都立井の頭恩賜公園で開催された第1回『かわフェスタ(河川部主催)』について報告します(当協会から高橋紀男、佐藤清美、野崎元、丹野修がスタッフとして参加)。河川愛護月間行事として河川整備事業の紹介や水辺の生きもの等を提示することでさらなる河川愛護意識の醸成をはかることを目的に、都民が参加しやすいよう休日の公園で開催されました。内容及び役割分担は次の通り。

- ① 都が取り組む河川事業の紹介＝河川部・防災ボランティア(高橋・野崎)
- ② 川のフォトコンテスト＝イベント業者(株ステージ)
- ③ 川の流れる学習できる模型の展示＝東京都土木技術支援・人材育成センター
- ④ 水辺の生きもの展示＝東京都西部公園緑地事務所、認定NPO法人生態工房『かいぼり隊』
- ⑤ 土砂災害対策模型・説明＝河川部
- ⑥ 神田川と流域の歴史＝神田川上流懇談会、防災ボランティア(佐藤・丹野)
- ⑦ 愛護月間行事PR映像＝イベント業者(株ステージ)



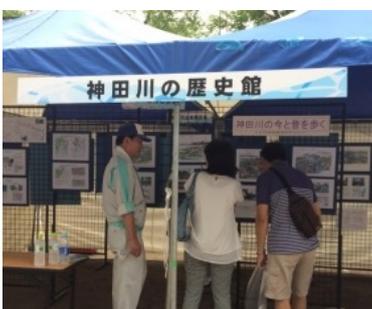
朝から蒸し暑い曇り空。降雨確率 30%の予報。最後まで持ちこたえてほしいと祈りながら 9 時 40 分ミーティングに参加。総括(渡辺修土砂災害対策担当課長)から熱中症に気を付けながら初めてのイベントが成功するよう、よろしくとの挨拶と担当(大竹課長代理)から連絡事項の伝達があり、10 時にイベントスタート。直後から来場者の出足も好調。昼時は気温 32 度、晴れ間が広がり蒸し暑さも増し人もまばらな状態。13 時過ぎ、急に来場者が多くなりほとんどのブースでスタッフも忙しく対応している状況。その後も波がありつつも途切れることなく小学生とその親たちの姿や未就学児を連れた三十代の夫婦連れから老夫婦など様々な年齢層の来場者で賑わいました。

一方、井の頭池では午前・午後各 1 回、前日から池に沈めておいたトラップを引き上げる『かいぼり隊』体験イベントも同時開催。夏休み中の休日とあって、池ではスワンボートをこぐ姿も多くみられました。

15 時 30 分頃には、東野河川部長が隅田川花火会場から駆けつけ、各ブースを熱心に視察されました。終了 15 分前頃から雨が降りだしましたが傘をさすほどでもなく 16 時を迎えることができました。河川部長から皆さんの努力により無事イベントも終了したことのお礼、続いてイベント総括より来年に向けた決意等が述べられ解散となりました。

#### ○トピックスなど

水辺の生きもの展示では井の頭池のイノカシラフラスコモ、ニホンスッポン、テナガエビ、アメリカザリガニなど在来種、外来種、国内外来種も見られ子供たちや親子連れなどに人気



がありました。川釣りが趣味という 60 歳台男性はテナガエビが河口ではなく井の頭池に在来種として生息していることに驚いていました。

神田川の歴史館ブースでは、彩色した 29 枚の江戸名所図会 (1836 年) の当時の姿と現在の姿を、写真や地図でわかりやすく示したものや、神田川の名前の由来 (上流部が神田上水、中流部が江戸川、下流部が神田川と呼ばれた時代もあったこと) などを、各年齢層の来場者が感心して見入っていました。神田山開削の歴史を知り、偉大な人の力に改めて感心する人、妙正寺川との合流地点 (水害常襲地帯?) に住んでいたという夫婦の姿もありました。

『かわフェスタ』に参加して、災害対策の重要性はもちろんのこと、生きものが棲む池 (公園) と川は人々の連携によって大切にするものの必要性が来場者に伝わったように感じました。お陰様で蒸し風呂状態の中、立ちっぱなしではありましたが疲れも知らず楽しく参加できました。思いがけず現役時代の関係者と出会うことができたのも収穫でした。

来場者数は約 2,000 名 (主催者発表) と初イベントとしては成功だったのではないのでしょうか。スタッフの皆さん、一日お疲れ様でした。

西部公園班 丹野修

#### —初めて参加・夏休み多摩川教室—

主催は多摩川流域協議会及び国土交通省京浜河川事務所で、我が建設防災ボランティア協会としては初めての参加であった。7月25日・26日の2日間で10時から15時まで開催され、場所は多摩川下流部右岸(川崎市側) 東急田園都市線の上流側の河川敷で、2日間で河川部4名、防災ボランティア4名 (佐野、野村



隆、鈴木秀、柴田の各会員) の8名で対応した。

大小仮設テントにそれぞれ趣向を凝らした14の展示があり、見学者を楽しませた。その中で、東京都河川部では「川の中の流れ

を調べてみよう」と題し、実際に水を流す透明の亚克力模型や地下調節池のパネル展示を行った。身近な川の中で起きている水の流れを、一目で分かる模型で実際に水を流し、川の幅が狭くなったり広がったりする場所や川底の段差部などを見学者の皆さんに操作して頂いた。そのなかで、水の流れの特性や川の整備の仕組み、特に東京都での地下調節池への河川水の流入について説明した。真夏という季節柄水を使った模型はお子さんたちに大好評、順番待ちで楽しんでた。

また川崎市内ということもあり、殆どの方々は環7地下河川やその他地下調節池を知らず、驚いておられた。

25日は快晴のなか賑わっていたが、26日は一変して強い雨で河川敷での開催も心配されたが、無事事故なく終了、関係者一同ほっとした。雨の中でも、小学生を中心とした親子連れの皆さんが集まり、用意した東京の河川を描いた手ぬぐいや水防用の移動式排水ポンプ車(筆者が現役時代担当し更新した)のペーパークラフト等を全て配布し、好評であった。これは河川グッズとして販売しても、それなりに都庁のお土産として売れるのではと思えた。

今回神奈川都民と思われる方々と接し、都内での河川事業を少しはPR出来た。次は千葉都民、埼玉都民などの方々にもPRが必要なのはとも感じた。初参加であり、いろいろ調整して頂いた担当理事や河川部の方々にお礼申し上げます。

二建班 鈴木秀一

### —野川の通信簿(北南建班)—

炎天下の7月3日(月)、第15回「野川の通信簿」に、防災ボランティア北南建班6名は、老体に鞭打って参加いたしました。

今回は、少子・高齢化社会の到来を見るようで、小金井市立南小学校6年生は2クラス85名という、例年になく少ない人数となり、流域連絡会の方々も15年前は若く働き盛りでした

が、長い歳月はそれなりの姿を見せていました。年に1回とはいえ活動には相当の労力を費やさせているようで、後継者問題もあるとのこと、今後あと何年続けられるかなどという話もありました。

86名の6年生は、ABCDの4班に分かれて、「水生生物」、「水質」、「鳥・昆虫」、「植物」の4つの項目を各班3つの項目について勉強するというものでした。しかし15年間で初めて、活動当日の野川に水が無いという事態が発生し、「水生生物」の項目は写真を使うなど、講師である流連の方々が工夫こらしたものとなりました。

「水質」の項目についても、野川の水は何時もの場所の採水ではありませんでしたが、暑い炎天下での勉強を子供たちは頑張っていました。

北多摩南部建設事務所では、協会員の参加は、4名程度で良いとのことでしたが、今年も柿塚



顧問を初めとして、池田リーダー、米田さん、内山さん、舛原さんと私の6名が

参加しました。例年このイベントを楽しみにしている会員も多いことから、来年も8名程度の方々をお願いしていくつもりです。

お世話になった小川工事第二課長さん以下7名の方々に感謝申し上げます。

北南建班 新川彰

### —川を歩こう多摩川(西建班)—

7月13日午前9時30分、鳩ノ巣駅に約30名の参加者が集まりました。受付を済ませて西多摩建設事務所の出戸工事第二課長が挨拶、準備体操をして3班に分かれてスタートしました。鳩ノ巣溪谷遊歩道を奥多摩観光協会の「名人・達人ガイド」の先導と解説を聞きながら歩き、

白丸ダムの魚道管理棟のゴールをめざしました。白丸ダムサイトからは魚道が俯瞰でき、解説版の前では多くの方が足を止めていました。最後に、魚道管理棟のらせん階段を下り、魚道を見



学して解散しました。

梅雨明け前の曇り空の一日でしたが盛りだくさんの内容に参加者も大満足のようでした。西建班からは、谷村班長、清水、高橋、山縣の4名がスタッフ参加しました。解散後は、奥多摩駅まで自主的に道路徒歩点検を行いながら歩き、反省会で英気を養いました。

西建班 山縣正彦

**—活動する各班の紹介—**  
**川を歩こう隅田川(一建班・五建班)**



**川を歩こう石神井川(四建班、六建班)**



**川を歩こう南浅川(南西建)**



**環七地下の巨大トンネルを体験(三建班)**



**わくわく川掃除&川あそび(北北建班)**



**前期・道路施設等点検終了**

「道路の施設とバリアフリー点検」の前期が6月14日から7月19日まで行われ、会員58名が参加しました(下表)。参加された皆様、暑い中ご苦労様でした。後期は11月~12月上旬の実施が予定されています。よろしくお願いいたします。

事務所	実施日	参加協会員
一 建	7/14	1 名
二 建	7/7～7/13	6 名
三 建	6/29・30・7/13	6 名
四 建	6/15～6/27	8 名
五 建	7/4・10	2 名
六 建	7/12・19	3 名
西 建	6/20～7/6	10 名
南東建	6/14	8 名
南西建	6/29	8 名
北南建	6/26・29・7/11	3 名
北北建	7/5	3 名
計		58 名

担当理事 久保田元久

## 寄稿

8月3日と10日の2日間にわたり、第一市街地整備事務所の職員が勝鬨橋を研修として訪れました。その概要を同事務所工事課工事担当の三上卓也さんから寄稿していただきましたので掲載いたします。

### 勝鬨橋見学ツアーを体験して

#### 1. はじめに

～第一市街地整備事務所長三木健の挨拶～

このたびは、事務所職員 26 名を勝鬨橋の見学ツアーに参加させていただき、誠にありがとうございました。当所では、平成 28 年度から所内に「一整个人材育成スクール」を立ち上げ、職員のスキルアップを図る取組を進めており、とりわけ若手職員に対しては様々な所管業務を

体験させる OJT による人材育成に取り組んでいます。昨年度に引き続き、今年度は 8 月の 2 日間、計 4 回のツアーに新規採用（キャリア採用含む）職員と当所に異動してきたばかりの職員が 22 名、技術（土木・建築）職だけではなく事務職の職員も参加しました。



り、技術（土木・建築）職だけではなく事務職の職員も参加しました。

当所が所管する「晴海通り」に位置する「勝鬨橋」の資料館、橋脚内部及び運転室を見学させていただいたことにより、勝鬨橋建設の歴史的背景、昭和初期の橋梁建設技術や可動橋の特徴などを知ることができました。

参加した職員は、建設当時における東京市職員の設計および施工技術の高さや将来を見通す先見性などに驚きや感動を受けておりました。そこで、お礼もかねて、参加職員の感想をいくつか紹介させていただきます。



#### 2. 参加職員の感想

##### (1) 技術レベルの高さについて

①90 年近く前のコンクリートが健全な状態であること、②数千トンの橋の開閉を可能にする大型構造物であること、③当時の東京市職員が自ら設計していたこと、④可動部にカウンターウェイトを用いてバランスを取り、最小限の動力で開橋していたこと、⑤維持管理を見据えたコスト意識の高さ、⑥国産の技術（トラニオン軸のグリスを除く）のみを駆使して建設したこと、⑦橋台は直営で建設していたこと。

##### (2) 安全への配慮について

①道路利用者に対する信号や停止位置の明示などの安全対策、②運転室の操作盤は、誤作動を防止するため「押す」のではなく「引く」操作となっていること、③手動でも開閉できるよう



な設備を用意していたが、使用した経歴がないこと。

### (3) 当時の社会情勢について

①当時の製造技術では厚い鋼板を製造できず、リベットで接合していたこと、②橋は後世に残るものだから、リベットの配置も美しくなるように配慮されていたこと、③可動橋ではあるが船舶物流の減少や路面電車の開通などの交通や物量形態の変化を予測していたこと。

### 3. 見学ツアーを終えて

勝鬨橋の見学に参加した職員からは、「品質の良いものを造るため設計・施工監理や維持管理の重要性を再認識した」（キャリ採技術職）、「先人たちの知恵と工夫を感じ取り、今後の業務に生かしたい」（新採技術職）といった業務の振り返りとともに、「私も後世に遺せるような仕事をしたい」（新採技術職）、「橋脚内の見学ツアーは貴重な体験ができる取組であり、レガシー活用の良い事例である」（新採事務職）のように、これからの都政を支える意欲にあふれた前向きな気持ちも芽生えています。

見学ツアーの引率を担当した私も、橋台内の



可動装置の迫りに圧倒され、砂埃を上げてダイナミックに開橋する当時の

様子を想像していました。

このような貴重な機会をいただき、対応してくださった東京都道路整備保全公社の皆様と橋脚内部への引率および技術的な解説をしてくださった東京都建設防災ボランティア協会の皆様に深く感謝するとともに、勝鬨橋が東京のシンボルとして存続していくことを強く願っています。

文責 工事課工事担当 三上卓哉

## 計 報

去る8月27日、協会創立時から20年間にわたり、南東建班で活動されてきた田澤成雄さん（81歳）が御逝去されました。謹んで御冥福をお祈りいたします。

### 協会からのお知らせ

- ① 前号で新規会員の小林恒夫さんを北南建班と紹介しましたが、西建班の誤りでした。訂正してお詫びいたします。
- ② 勝どき橋ミニツアーは塗装工事等により、12月28日の案内を一区切りとし、平成32年3月末まで中断となります。この間の対応については、現在理事会で検討中です。11月27日(月)に予定している研修会で、詳細を説明いたします。
- ③ 各班の活動報告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス([mikio.hayashi@okumuragumi.jp](mailto:mikio.hayashi@okumuragumi.jp))
- ④ 最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などは、協会H. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)をご覧ください。アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

### \*\*\*編集後記\*\*\*

都知事が突然国の政党代表になるという、不可解な選挙も終り、今後、都は何処に向かうのだろうかと案じつつ、防災ボランティア活動はその対極で、絶え間なく、地道な活動を続けることが大切と、改めて思います。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会

新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 高橋 紀男、林 幹生

堀内 康彦、丸岡 敏夫

